

# 令和5年度病虫害発生予察情報 発生予報第4号

令和5年7月14日  
発表：福島県病虫害防除所

## 1 普通作物

作物名	病虫害名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水 稲	いもち病 (穂いもち)	中通り 会 津 浜通り	平年並	やや少ない  平年並	生育調査からみた本年の出穂期は平年並と予測される。 天候予報（7月6日発表1か月予報）によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並から多いと予想されている（±）。 7月上旬の巡回調査では、葉いもちの発生ほ場割合は中通りと会津で平年より低く（-）、浜通りで平年並だった（±）。	上位葉に病斑がみられる場合は、薬剤防除を実施して穂への感染を防ぐ。 水面施用剤は出穂前、散布剤は穂ばらみ末期と穂揃期に施用する。 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同一系統の薬剤の連用はさける。
	紋枯病	全 域	平年並	平年並	天候予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並から多いと予想されている（+）。 前年の発生量は平年よりやや少なかった（-）。	窒素肥料の多用をさける。 水面施用剤は出穂前、散布剤は穂ばらみ期～穂揃期に施用する。 気温が高いと上位葉鞘への進展が早いため、特に常発ほ場では注意する。
	イネツトムシ（イチモンジセセリ）	全 域	—	やや少ない	7月上旬の発生ほ場割合は平年より低かった（-）。	直播栽培や葉色の濃いほ場では被害が大きくなりやすいため、注意する。 幼虫の虫齢が進むと薬剤の効果が落ちるため、発生を確認したら早めに薬剤防除を行う。

注) 予報の根拠の中で（+）は多発要因、（-）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

## ○注意が必要な病虫害

水 稲	<p><b>■斑点米カメムシ類</b></p> <p><b>畦畔雑草での発生が多く、今後も高温が予想されるため、水田周辺での密度が高くなるおそれがあります。畦畔の草刈りは出穂10日前までに完了させてください。</b></p> <p>1回目の薬剤散布の適期は、対象とする種によって異なるため注意してください。カスミカメ類が優占している場合は乳熟期（出穂7～10日後）、クモヘリカメムシが発生している場合は出穂期～穂揃期（出穂4日後）が散布適期です。追加散布を行う場合は、1回目散布から7～10日後を目安としてください。</p>
-----	--

より詳しい発生状況や防除対策は、

福島県病虫害防除所ホームページ<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>をご覧ください。

お問い合わせはTEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727またはe-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jpへお願いします。

◆福島県では6月10日から9月10日まで令和5年度農薬危害防止運動を実施中です。  
◆農薬を使用する際は、ラベルをよく読んで正しく使用しましょう。